

平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号		09 04 17	中期総合計画主要施策番号		1-08		担当課	部・課	農政部 園芸畜産課	
事業名		外来魚等食害防止対策事業				内線		3084		
						E-mail		enchiku@pref.nagano.jp		
事業の概要等	事業の目的	ブラックバス、ブルーギル等の外来魚、カワウ及びミンクによる漁業被害を軽減し、豊かな水産資源を維持する。								
	事業の必要性	【現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)】 違法放流等により生息域を拡大した外来魚やカワウ、ミンクによる漁業被害が増大している。								
		【原因分析(ギャップが発生している原因は何か)】 外来魚は溜池等から河川への分布が広がっている。カワウは冬季に他県から多数飛来し、個体数の削減が進まない。ミンクは千曲川上流域(南佐久、佐久地域)から徐々に下流に広がりつつある。								
		【課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)】 外来魚は特に生息数が多く、許容できない水域での駆除を進める必要がある。カワウは冬季間の駆除・追い払いによって定着させないようにする必要がある。ミンクはこれ以上分布を広げないよう千曲川上流域に封じ込める必要がある。								
	事業内容	・外来魚、カワウ及びミンクに対する防除対策を実施する漁業協同組合、自治区、財産区に対する補助(補助率:[県]1/2以内)								
実施期間	H15 ~		根拠法令等 長野県食と農業農村振興計画、外来魚等食害防止対策事業実施要領							
成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況			評価	
	外来魚、カワウ及びミンクに対する防除対策を実施し、漁業被害を軽減する。		事業主体の駆除実績等から外来魚10,000尾、カワウ200羽、ミンク30頭程度を目標に駆除を行うこと。			外来魚13,297尾、カワウ217羽、ミンク47頭を駆除した。さらに外来魚の294箇所の産卵巣を破壊し、繁殖を抑制した。			a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下	
事業コスト	区 分		単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要			
	最終予算額 (A)		千円	4,515	3,361	3,271	国庫・県単		県単	
	決 算 額 (B)		千円	4,515	3,302		実施方法		補助	
	B(H21はA)のうち一般財源		千円	4,515	3,302	3,271	歳出節別内訳等		旅費:71 ・需用費:231 補助金:3,000	
	概 算 人件費	従事する職員数	人	1.44	1.44	1.44	(単位:千円)			
	概算事業費 (B(H21はA)+C)		千円	14,797	13,597	13,566				
事業実績	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績			
	外来魚駆除数		尾	17,584	13,297	10,000	・上田市のため池で水抜きによる外来魚の駆除を実施し、外来魚生息域を減少させた。			
	カワウ駆除数		羽	175	217	200	・外来魚生息域の拡大を防ぐため違法放流防止啓発の看板及びポスターを配布・設置した。			
	ミンク駆除数		頭	36	47	30	・カワウ対策は繁殖期に35個の擬卵にすり替える繁殖抑制や舟、花火、防鳥テープによる追い払いを行った。			
事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明							
	事業のニーズの変化		増加	横ばい	減少	判定の説明	・在来魚への漁業被害が増大している。また、外来生物法施行(H17年6月1日)により、県民の外来生物問題の意識が高まり、自治会等で外来魚を駆除する活動が芽生えている。			
	県の関与を見直す余地		余地なし	当面余地なし	余地あり		・カワウの捕獲駆除は鳥類捕獲に精通している猟友会への委託や、駆除個体の買取により一層効率を高めることができる。			
	有効性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	効率性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
課題の総括		駆除目標数は達成しているが、漁業被害は駆除を行うことにより大幅な増加を抑えている状況であり、内水面漁場管理委員会による外来魚再放流禁止指示や中部近畿カワウ広域協議会への参画など、他の施策とあわせて本事業を継続していく必要がある。								